

平成二十六年 度「花のまわりみち」

川柳入選句

三 浦 宏 選

天地人・秀逸

「天位」

褒めことば貫う花笠誇らしげ

飛 田 陽 子

（評）

多くの中から選ばれた「花のまわりみち」のパンフレット表紙の花笠。56品種218本の中の5本。花笠に似た形に一層の親近感を覚える。

「地位」

あこがれは御衣黄ぎようこうという自己主張

山 下 天 平

（評）

黄緑色の花びらは、いかにも何かを訴えていると思わせる縦の紅色の線とともに見るものである。下五がいかに川柳らしい。

「人位」

どの八重やえも一番ですと咲きほこり

沖 山 后 子

（評）

花のまわりみち―八重桜イン広島―にも、ほとんどが観賞用として、長い年月をかけて品種改良されたものが多いと記されていますね。

「秀逸」(五句)

花笠の下で我が妻映えて見え

石原 一

(評) やはり花笠へ軍配と陰の声。

花笠に心奪われまわりみち

山本 和夫

(評) さすがと思わせる今年の花笠も。

花笠に雨傘たたむはなやかさ

山本 隆之

(評) 今年の花には敬意を表して。

花笠に舞妓のように傘をさし

徳田 進(遊生)

(評) 花街の雰囲気を思い出させる。

花笠と笑顔が並ぶカメラアイ

吉川 美佐子

(評) 天気の良い日は順番待ち。

佳作

(十八句)

九条の行方気になるまわりまち

一覽表見ながら探す今年花

来るたびに表情変えるまわりみち

カメラ持ち子よりも先に桜撮る

花も人も一期一会のまわりみち

昼もよし夜桜もよしまわりみち

撮られてる美女も桜に負けており

花々が自己主張するまわりみち

来るたびに発見新たまわりみち

花仰ぎ連れと逸れたまわりみち

糸括いとくくみたいに集う家族です

関山かんさんにカメラ集る紅映えて

紅普賢象べにふげんぞう美しすぎて立ちくらみ

重たげにこうべを垂らす糸括いとくく

花守は立派に育て逝き給う

花守を偲しのびつつ見るまわりみち

ちらちらとちる花びらもきれいだな

さくらにはいろいろしゅるいあったんだ

吉川徳子(徳子)

村島 美知子

楠山東石子(東石子としこ)

玉置 天子

淡路則之(猓眠)

榊 敦子

志田 寿江

木原 昌子

西 畠 悟

吉川 美佐子

坂 田 典

徳田 進(遊生)

三宅総一郎(創総)

三 谷 雄 己

中 植 紀 子

中 植 勝 己

にしはたまなみ(7才)

まとばりようすけ(小3)

選者吟

ヒロシマエバヤマザクラを探しかね

三 浦 宏